

学校支援地域本部事業

自治体名

岩手県奥州市

学校数

小学校 33校 中学校12校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

、岩手県の内陸に位置しており、津波浸水等の大きな被害はない。
ただし、県南に位置するため、放射線の線量が高い地域もあり、除染作業を進めている。(仮設住宅数 0)

＜取組名＞

～奥州市学校支援地域本部事業～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
	8人(5本部)	のべ 25,000人	のべ 140日	5中学校、13小学校

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
	○		○	○	(読み聞かせ、HP更新他)
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					()

＜取組の内容を具体的に記載＞

【図書ボランティア】

- ・ 図書室の環境整備を行った。(季節に合った手作りの装飾、破損した本の修理、新刊本のカバー掛け、椅子のカバー掛け 等)
- ・ 朝読書見守りをしたり、読み聞かせをしたり、ブックトークを行ったりした。(読み聞かせ等、中学校でも実施)

【校内環境整備ボランティア】

- ・ 殺風景であった図書室や校内の整理、装飾などを行い、子ども達が足を運びたくするような環境作りに努めた。

【学校ホームページ更新ボランティア】

- ・ 不定期更新ではあるが、学校ホームページの更新を行った。

【学習支援ボランティア】

- ・ 家庭科授業のミシンを扱う授業、包丁を使用する調理実習、習字などで補助を行った。
- ・ 学校行事(全校マラソン大会、町探検学習、文化祭……)のお手伝い・補助を行った。



準備段階

◇被災による課題

- ・ 本市では、地震による住宅や公共施設の被害があり、修繕を進めている。市内の避難者は、30 世帯、60 名が現在もみなし仮設住宅に居住しており、市外からの避難者も約 116 世帯、251 名が本市へ避難し、市営住宅等で受け入れている。
- ・ 県南部のため、放射線の線量が高い地域もあり、除染作業を進めている。
- ・ 放射能の影響や H20 岩手・宮城内陸地震の経験等、今後さらに防災教育の重要性が増しており、学校と地域の連携強化が必要である。
- ・ 学校は多忙化し、地域の教育力が低下している。

◇住民等からの要望・必要な取組

- ・ 地域で学校を支える仕組み作りが必要である。
- ・ 地域の教育力を高めるため、地域の力を掘り起こす必要がある。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・ 実行委員会(行政、学校、PTA、自治会 等): 事業の実施支援、事業評価、普及啓発 等
- ・ 学校支援地域本部(地域教育協議会、地域コーディネーター、学校支援ボランティア): 地域全体で学校を支援
- ・ 地域教育協議会(学校長、教職員、PTA、地区振興会長 等): 学校支援活動の企画立案、事業評価、広報活動 等
- ・ 地域コーディネーター: 各学校支援地域本部にて、地域の方より選出。
- ・ 学校支援ボランティア: 地域コーディネーターが各学校と協議し、広報等にて募集。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・ ゆるやかに無理のない範囲で活動の幅を広げ、開かれた学校、地域と学校との連携強化を目指している。
- ・ 地域の様々な人材を活用し、地域の教育力の向上、子どもたちの人間関係の広がりを図っている。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

- ・ 各本部の地域コーディネーターを複数配置することにより、一層、学校と地域の関係を強化することができた。
- ・ 地域コーディネーターや学校支援ボランティアのそれぞれの特技を生かし、読み聞かせやブックトークを行ったり、ホームページの更新をしたりしている。また、5本部間での人材の交流を行ったことにより、活動の幅も広がった。
- ・ ホームページの更新や校内の環境整備等、手間がかかる作業は学校から喜ばれている。また、先生が子ども達と一緒にいることが難しい朝の時間の本の読み聞かせ、授業支援として行った習字、家庭科でのミシン・調理実習などの補助は、先生の負担軽減につながるとともに、地域の人も子ども達と直接触れ合うことで、子どもの成長を見ることが出来る内容のため、学校、地域ボランティア、双方より非常に喜ばれた。多忙化する学校への一助となるとともに、地域ボランティアの人達も、積極的に、自分たちの地域の学校・子ども達を支えていこうという気持ちが生まれて来ている。

◇復興に資する内容としての数値的達成の成果

学校支援に携わる地域ボランティアについては、地域コミュニティの再生という視点において、学校の負担を地域で支援するという意識と地域のネットワークの大切さについての意識の高まりが出ている。平成 25 年度に実施した地域ボランティア向けアンケートでは、ボランティアを実施することにより、「学校についての理解が深まった」という回答が 85.2%、「地域を意識するようになった」「新たな仲間が出来た」という回答が 70.9%、「今後も地域ボランティアを続けていきたい」という回答が 80.9%であった。また、学校に入ることにより、今まで気づかなかった問題についても意識するようになったという記述も多くみられた。今年度もアンケート調査を実施しており、現在集計中である。

◇課題や今後の展望

- ・ 教職員や地域等へ、本事業についての理解が進んでいない状況が見られる。継続して地域住民への周知を図り、他人任せではなく、子ども達自らが育ちやすい環境、地域コミュニティを構成しているという意識が広がるよう地道な普及啓発活動が必要である。
- ・ 地域コーディネーターの負担が大きくなる傾向がある。『『できる人』が、『できるとき』に、『できること』をする』考え方で、さらに地域で学校を支える体制づくりを進めていきたい。